

中高年の生涯スポーツとして定着したマスターズ陸上。和歌山市在住で、日本の草分けである日本マスターズ陸上競技連合会長、鴻池清司さんが長年の夢として温めてきた複数競技でのマスターズ初のオリンピック「マスターズピック」実現へ動き出した。今秋の国際・全日本マスターズ陸上競技大会を足がかりに機運を高める考えで、「オリンピックピックなど考えもなかった人も、競技を続けていけば、マスターズピック出場の実現も夢を持つ」と強調する。



何歳になっても出場できるのがマスターズの魅力

中高年の生涯スポーツとして定着したマスターズ陸上。和歌山市在住で、日本の草分けである日本マスターズ陸上競技連合会長、鴻池清司さんが長年の夢として温めてきた複数競技でのマスターズ初のオリンピック「マスターズピック」実現へ動き出した。今秋の国際・全日本マスターズ陸上競技大会を足がかりに機運を高める考えで、「オリンピックピックなど考えもなかった人も、競技を続けていけば、マスターズピック出場の実現も夢を持つ」と強調する。

40歳だった1977年、スウェーデンでの第2回マスターズ陸上世界大会に400メートルハードルや走り幅跳びで出場した鴻池さん。「元五輪金メダリストも、走るが遅い人も、95歳の人もいた。何歳でも挑戦できるこんな大会を、ぜひ日本で」と決意した。翌春、和歌山マスターズ陸上競技連盟を立ち上げ、秋に紀三井寺陸上競技場で西日本選手権を開催。200人が参加し盛り上がりを見



鴻池清司さん

せると、80年に日本マスターズ陸上競技連合を結成、和歌山市で全日本大会を開いた。

それでも出られるマスターズ大会を通して、「生涯にわたる運動が、中高

る」と力を込める。

今後は、18年に近畿圏内で50歳以上が参加できる陸上、水泳、卓球の国際ゴールドマスターズ大会、20年はゴールドに加え、選ばれた競技者だけが出場できる国際選抜マスターズ選手権大会を実施し、それを発展させ24年に和歌山を含む近畿圏

を提唱し続ける。「5歳刻みで競うマスターズピックなら遅咲き選手にもチャンスが生まれる」との思いがあるためだ。

実現に向けて11年、陸上、水泳など6競技で和歌山マスターズクラブを結成し、地元での盛り上げを図った。昨年6月には陸上関係者でプロジェクトチームを立ち上げ、

高年齢者の筋力トレーニングを指導する和歌山大学の本山貢教授は理念について、「健康づくりをしながら、勝負をする。何歳になっても極限にチャレンジすることで、筋力を維持できる」と評価。60歳でベンチプレスを始め、80歳で世界記録を出した同市の藤田俊夫さんも「あらゆる年代の人がスポーツを続ける中で、こんな大会ができれば励みになる」と歓迎する。

県も中高年世代のスポーツを後押しする方向で、追い風が吹く。鴻池さんは秋の大会で認知度を高めた上、「オリンピックピック、パラリンピックとマスターズピックの同時開催が最終目標」と見据えている。

足下を固めながら、他の競技団体へ理念を広げる方針だ。

マスターズピックへ一歩

陸上、水泳ほかで開催目指す

鴻池さんが夢実現の足がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す

がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す

がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す

がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す

がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す

がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す

がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す

がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す

がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す

がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す

がかりとするのが、今年10月の国際・全日本マスターズ陸上選手権大会。和歌山市では2度目の国際大会となり、「国内マスターズ発祥の地から、健康づくりの場であり、勝負の場であるマスターズピックを強力に発信す